



*more***Trees**®

2023 年活動報告書

- 01. 目次 / メッセージ
- 02. more trees のビジョン
- 03. 世界の潮流と森林の役割
- 04. more trees の活動
- 05. 多様性のある森づくり
- 06. 「多様性のある森づくり」実施状況
 - ・北海道 美幌町／岩手県 住田町
 - ・岐阜県 東白川村／三重県 大台町
 - ・和歌山県 田辺市／高知県 梼原町
- 11. ものづくり事業
- 12. 普及啓発事業
- 13. 協賛者様一覧
- 15. 法人概要

メッセージ

ここ数年、気候変動のみならず生物多様性の損失や自然資本の劣化が私たちの暮らしを脅かし、経済活動にマイナスの影響をもたらすことへの危機感が世界的に高まっています。

これを受け、生物多様性の保全に関するルールづくりが国内外で進んでいます。環境省は、2023年度から「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定する仕組みを設け、法制化に向けて動きはじめました。

グローバルに目を向けると、2023年9月には、企業に生物多様性や自然資本に関連する情報の分析・開示を求める「自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）」の最終提言が公表され、開示基準やアプローチが確定しました。今後、企業は自身の事業活動が自然環境に及ぼす影響・依存度やそこから生じるリスク・機会の情報開示を迫られ、投資家は開示情報を参考に企業を選別する動きが加速すると考えられます。

生物多様性と気候変動は別々に捉えるものではなく、コインの表と裏のような深い関わりであるともいわれています。つまり気候変動対策を進めるうえでも、生物多様性および自然資本の保全・回復は欠かせません。

こうした世界的潮流のなか、「森林」の重要性はますます高まっています。森林はCO2の吸収源としての役割を果たすだけでなく、陸上の生物種のうち約8割の生育・生息の場となっていると考えられています。気候変動対策、そして生物多様性や自然資本の回復にとって重要なカギを握る森林の保全活動に、これからも努力してまいります。

引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

more trees事務局長 水谷伸吉

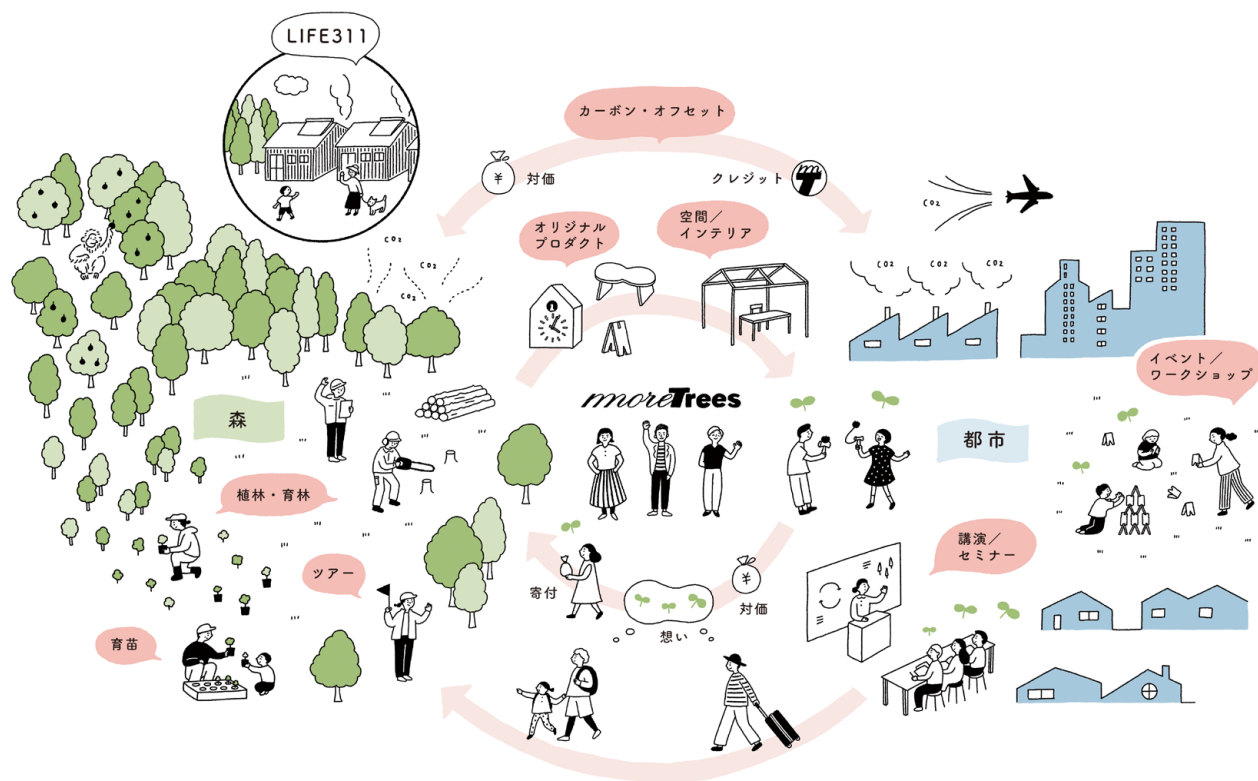
森と人がずっとともに生きられる社会を目指して

more treesは

「都市と森をつなぐ」森林保全団体です。

一般社団法人more trees（モア・トゥリーズ）は、音楽家 坂本龍一によって2007年に創立され、建築家 隈研吾が代表を務める森林保全団体です。いま世界は、気候変動や生物多様性の危機など、森林の減少がその一因といえるさまざまな問題を抱えています。状況は深刻で、解決はおろか、改善も容易ではありません。それでも、目の前にあることから取り組むという姿勢を、私たちは大切にします。

more treesは、森林が持つさまざまな機能の回復を目指した保全活動のほか、森からは製品・サービス・情報・体験などを都市に届けること、都市からは森の恵みの価値を受け止めた人々の思いや経済的な対価を森に還すことで、「都市と森をつなぐ」活動を行っています。この循環を生み出し高めていくことが、私たちの考える“森づくり”です。



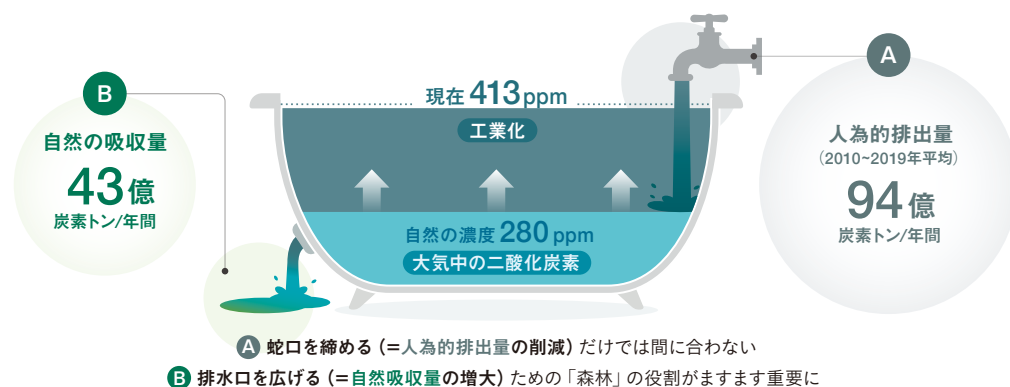


脱炭素社会に向けて

産業革命以降の急激な温室効果ガス（主にCO₂）排出量の増加は、気候変動を引き起こす主な原因とされ、地球温暖化や自然災害などさまざまな形で私たちの生活を脅かしています。なかでも地球温暖化は氷河の融解を促進し、さらなる気温上昇を引き起こすことが科学的にも証明されており、こうした「気温上昇の悪循環」から後戻りができないような転換点（ティッピング・ポイント）を迎えつつあるといわれています。

そうしたなか「脱炭素」の対策が世界的に喫緊の課題であるのは周知のとおりです。脱炭素の取り組みは、これ以上大気中のCO₂を増やさないための排出量の「削減」と、すでに出してしまったCO₂を「吸収」する取り組みに大別され、両軸で取り組んでいくことが重要です。ただし、たとえいままさに新たな排出量をゼロにできたとしても、過去に排出した温室効果ガスは数十年にわたって大気中に残り「気温上昇の悪循環」を引き起こしてしまいます。

そこで重要な役割を果たすのが、CO₂吸収源としての「森林」です。パリ協定の「1.5℃目標」を達成するために科学的根拠に基づいた目標設定を支援する国際イニシアティブ「SBTi」は、「1.5度目標を達成するためには2020～2050年の間に毎年10～40億トンの除去（自然による吸収など）が必要」と提言しています。脱炭素社会の実現に向けて、「植林や森林の適切な管理」によりCO₂の「吸収」作用を保全・強化する取り組みが不可欠です。



出典：Global Carbon Budget 2020

カーボン・オフセットの取り組み

脱炭素社会の実現に向けてすぐに実行できる取り組みのひとつがカーボンクレジットの購入によるカーボン・オフセットです。more treesが提供する森林由来のカーボンクレジットをご購入いただくことで、企業活動等によるCO₂排出量を森林によるCO₂吸収量と相殺（オフセット）するとともに、森林の保全活動に貢献できます。

2023年は24の企業に合計2,818トンのクレジットをご活用いただきました。

オフセットの対象となる活動は企業ごとに多種多様です。温室効果ガス排出量の算定・報告の国際的な基準である「GHGプロトコル」では、サプライチェーンを3つに分類した「スコープ分類」を策定しています。スコープ分類ごとにクレジットをご活用いただいたオフセット対象の活動例をご紹介します。

オフセットの対象となる活動例

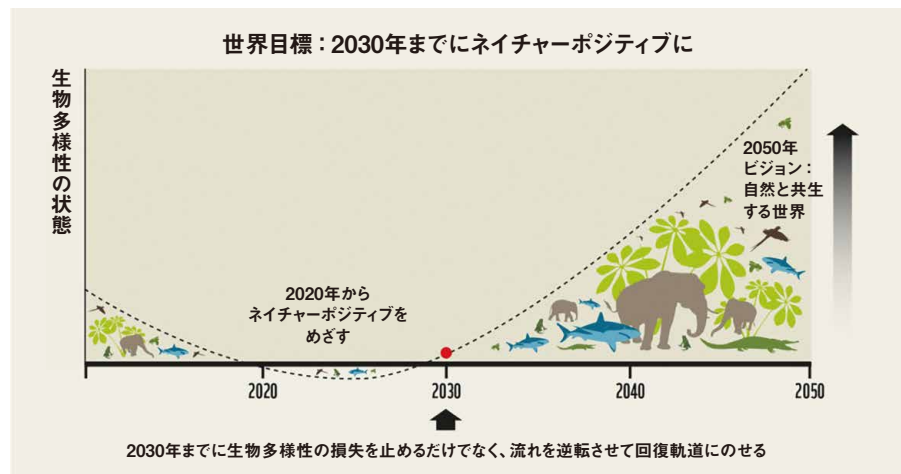
- **スコープ1**（事業者自らによる直接排出）
 - ・ 自社工場からのCO₂排出量
- **スコープ2**（外部から調達する電力や燃料の使用に伴う排出）
 - ・ ホテルの宿泊に伴うCO₂排出量
 - ・ オフィスでの電力、ガス使用に伴うCO₂排出量
- **スコープ3**（その他事業者の活動に関連する他社の排出）
 - ・ 商品の物流及び従業員の通勤・出張に伴うCO₂排出量
 - ・ 製品の製造、配送に伴うCO₂排出量
 - ・ イベント開催に伴う参加者の移動によるCO₂排出量
- **その他**
 - ・ 自社商品に一定量のクレジットを付与し、販売
 - ・ SDGsアクションを促すアプリ内において、ユーザーが行ったアクション数に応じたオフセットクレジットの購入

ネイチャーポジティブとは

昨今、多様な生物とそれを育む森林や土壌、水、大気などの天然の資源を、社会や経済にとって不可欠な資本とみなす「自然資本」という考え方が急速に広がりました。自然資本から生み出される生態系サービスは年間44兆米ドルもの価値創造につながっているといわれ、世界の総GDPの半分以上にあたります。しかし生物多様性は1970年から2016年の間に平均68%減少し、陸地の75%は改変され、海洋の66%は累積的な悪化傾向にあり、湿地の85%が消失したとされています。

こうしたなか注目を集めているのが「ネイチャーポジティブ」です。地球規模で生物多様性の損失に歯止めをかけ、自然資本をむしろプラスに増やしていくことを意味します。ネイチャーポジティブの実現に向けて舵を切るとは、事業リスクを低減するとともに新たなビジネスチャンスにもなると認識されつつあり、国際的には「脱炭素と一体的に取り組むべきビジネス課題」と位置づけて事業活動に組み込む動きが加速しています。

自然資本のなかでもとりわけ「森林」は、生物多様性や水資源、土壌、大気など多くの領域と密接にかかわっています。脱炭素に加えネイチャーポジティブの根幹を担うのが森林なのです。



出典：A Nature-Positive World: The Global Goal for Nature

世界の森

世界では、1秒間にテニスコート12面分もの森が消失しています。特に問題となっているのが、豊かな生物多様性を支える熱帯雨林の減少です。木材の利用を目的とした商業伐採や、農地（プランテーション）や牧草地への転換を目的とした野焼きによる開墾が引き起こす森林火災など、人間の経済活動が熱帯雨林減少の大きな原因となっています。また、地球規模での森林減少は、気候変動に大きな影響を与えています。

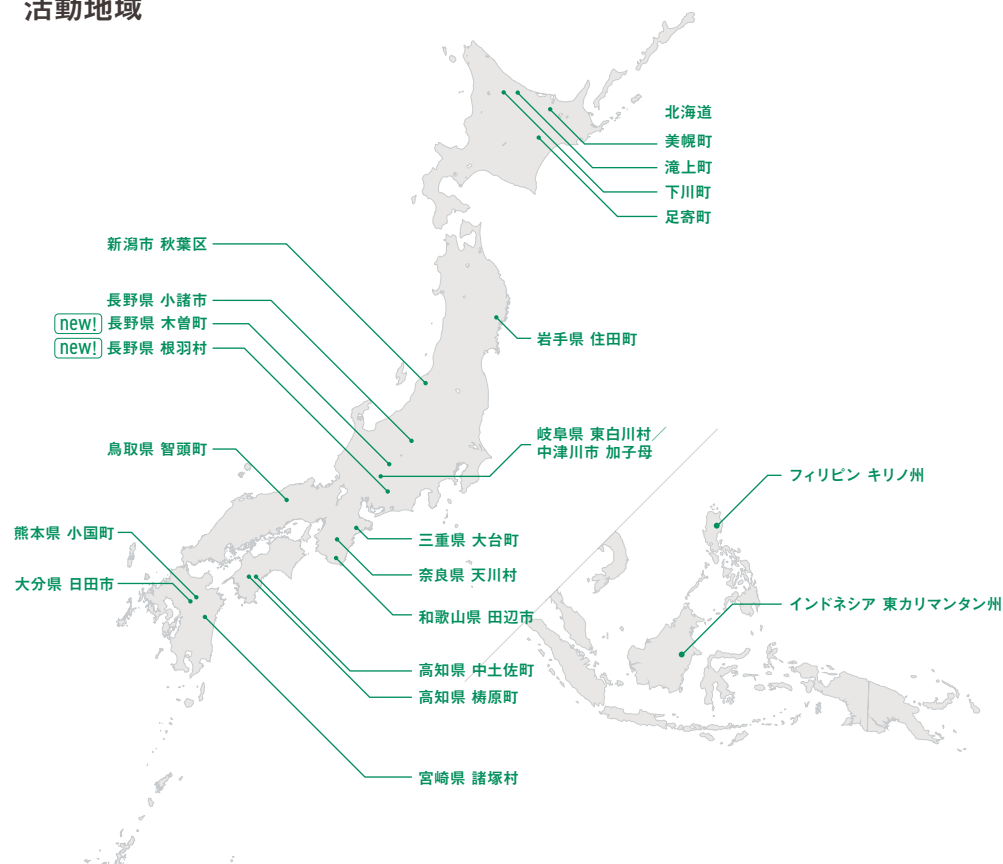


日本の森

日本は国土の約7割が森林に覆われる森林大国です。戦後の木材不足を解消するため、国によってスギやヒノキを中心とした針葉樹の植林が推進されたことで、森林蓄積量は増加したものの、スギとヒノキの2種類のみで人工林の約7割を占めるまでになっており、森林の多様性が失われている状態です。また近年では、収穫期を迎え伐採されたのち再び植林されていない土地や、採算性の悪化にともない今後も手入れされる見込みがない森林が増えつつあります。



活動地域



私たちは、国内20か所、海外2か所で森の保全活動を行っています。森の保全は、ただ木を伐らないこと、木を植えることだけでは実現できません。地域によってその方法はさまざまであり、活動の主役となるのはその土地に暮らす人々です。私たちは、地域の人々がもつ林業の技術や知識を最大限に活かし、さらに専門家や有識者の方々のアドバイスをいただくことで、その土地ならではの森林保全につなげられると考えています。そして、その土地に暮らす人々の生活が経済的にも適切に維持されるよう、方法を一緒に考え、実践のサポートをしています。

2023 年の実績

2023年も森林保全活動をはじめ、セミナーやイベント、ワークショップなど都市と森をつなぐさまざまな活動を実施しました。

植林した本数

49,470 本



植林した面積

29.33 ha



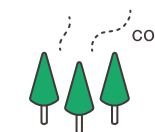
除伐、間伐した面積

23,000 m²講演の延べ聴衆
※オンライン含む

4,088 人

森林クレジットによってカーボン・オフセット
が実現した量

2,818 t



植樹イベントの参加人数

187 人

講演やシンポジウムに
登壇した回数

27 回

木育ワークショップを
体験した人数

200 人



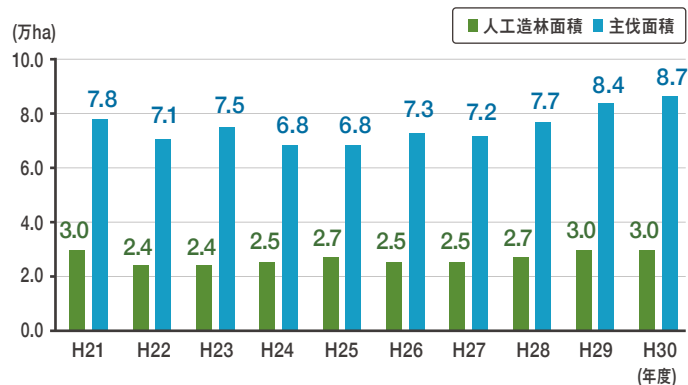


森の多様性

日本にはもともと主要な樹木が500種類以上あるといわれていますが、戦後の木材需要に応えるためにスギやヒノキを植林した結果、森林蓄積量は増えたものの、森の多様性が失われているのが現状です。こうした人工林の多くは林齢が50年程度になり、収穫可能な時期を迎えていることから、全国的に人工林の皆伐（一定の面積の木を全て伐採する方法）が増加傾向にあります。

一方で、伐採跡地に対して再び植林するための費用が捻出できない、あるいは林業の収益性が将来的に見込めないなどの理由で皆伐後に放棄されたままの未植栽地も増えています。こうした再造林放棄地は皆伐地全体の6〜7割ともいわれ、未植栽の状態で放置することが土砂災害などの要因の一つになっているという指摘もあります。

more treesでは、伐採跡地や再造林放棄地、今後も手入れされる見込みがない森林等に対し、単一樹種のみならず、その土地に適した様々な樹種で構成される森林への転換を目指し、全国各地で「多様性のある森づくり」に取り組んでいます。



出典：「多様で健全な森林への誘導」林野庁（2020年10月）

※ 民有林の主伐面積は推定値

企業の森

「企業の森」とは、more treesが各地で進める「多様性のある森づくり」への法人参加型プログラムです。脱炭素社会やネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みのひとつとしてご活用いただく企業が増えています。地域を指定して継続的にご協賛いただくスタイルのため、現地ツアーや植樹体験イベントの開催、ワーケーションやオフサイトミーティング先としての利用、地域産材をいかしたノベルティや店舗什器の製作など、森づくりをきっかけに企業の森の活用事例も広がりました。2023年は国内外の14地域で、21の企業にご参画いただいています。





地域と協働で進める「多様性のある森づくり」の取り組みは徐々に全国に広がっています。その中でも今年、特に動きがあった地域についてご報告します。

北海道 美幌町



北海道 美幌町

美幌町で森づくりを進める日並地区のうち、JAびほろ牧場に隣接するエリアでは、木材として利用可能な時期を迎えた人工林約30haの伐採が行われ、順次植林を進めています。対象地の近くを流れる小川は町の水道水の水源に近く、生物多様性、水源涵養機能の観点から広葉樹の植林を選択しました。あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様、株式会社ロイヤリティマーケティング様とともに森づくりに取り組んでおり、2023年はあわせて5.5haの土地に、ミズナラなどの苗木、合計11,000本を植林しました。

日並地区の別のエリアでは、カラマツの人工林約6haの伐採が行われた土地を対象に植林を進めており、こちらも生物多様性の回復、水源涵養機能の維持を目指し、「多様性のある森づくり」を進めています。株式会社I-one様、株式会社サッポロドラッグストア様と協働で森づくりに取り組み、2023年はあわせて2haの土地にシラカンバ（白樺）などの苗木、合計4,000本を植林しました。

さらに、苗木の地産地消化や環境教育の一環として、美幌町立旭小学校と協働で育苗に取り組んでいます。2022年より育苗を開始した苗木は、その多くが発芽し、順調に生長を続けています。また、2023年には町内でイベントを開催し、広葉樹の種採りや環境教育を実施しました。



ミズナラの苗木



美幌町立旭小学校の種採りイベント

岩手県 住田町

2023年は、住田町内の箱根峠にて0.54haの土地に11種類の苗木、合計783本、六郎峠にて0.33haの土地に10種類の広葉樹の苗木、合計348本を植林しました。岩手大学講師の松木佐和子氏にご協力いただき、ミズナラやカエデ類など町内の自生種を選定しています。

箱根峠では、2021～2022年の植林地を対象に生育調査を実施し、獣害対策として設置していた単木用ソーシェルトーから複数本の苗木を網で囲うパッチディフェンスへの切り替えや、単木植えから苗木を3本1組とする巣植えと呼ばれる植栽方法への切り替えなど、これまでの手法を大幅に見直しました。また、下草の生育抑制などを目的とし、ノリウツギなど通常より早く育つ先駆種の植林も行うことにしました。

六郎峠では、カラマツの皆伐跡地の植生回復を目的に2023年から植林を開始しました。箱根峠と同様、パッチディフェンスや巣植えを取り入れています。

同町の植林活動について、箱根峠は株式会社ユナイテッドアローズ様、三井住友カード株式会社様、六郎峠は株式会社メンバーズ様と協働で取り組んでいます。

また、住田町および一般社団法人邑サポートと連携協定を締結し、「育苗プロジェクトなえうえる」を開始しました。秋には町内にある有住保育園の園児の皆さんとともに広葉樹の種拾いを実施しました。



箱根峠での生育調査



パッチディフェンス

岐阜県 東白川村

三重県 大台町

岐阜県 東白川村

東白川村は面積の9割を森林が占め、なかでもスギ・ヒノキの人工林率が高い地域です。古くから「東濃ヒノキ」の主産地としても知られています。

施業地があるのは東白川村の黒淵地区。地元で林業を営む株式会社山共の約1haの社有林で、木材として利用可能な時期を迎えたスギ・ヒノキの人工林伐採跡地で「多様性のある森づくり」に取り組んでいます。山の尾根部に位置してアクセスが悪く木材生産に適さない土地であること、また地表を覆う笹の影響で自然の力による植生回復が見込めない状況を確認した現地調査を踏まえ、広葉樹を植林しています。

施業にあたり、2022年に岐阜県森林文化アカデミー特任教授の横井秀一氏をお招きして「多様性のある森づくり勉強会」と「技術研修会」を開催しました。勉強会では広葉樹施業の概論と現場での実践方法を学び、技術研修会では実際に施業や管理を行う山共が主体となって植栽デザインを計画しました。計画をもとに、2023年は0.25haの土地にコナラ、クリ、ヤマザクラの苗木、合計180本を植林しています。植林の際にも横井先生に立ち会いいただき、現場の地形に合わせた苗木の配置や獣害防止ネットの設置場所などご指導いただきました。本地区での植林活動はauじぶん銀行株式会社様と協働で取り組んでいます。



三重県 大台町

大台町に拠点を置く宮川森林組合では、従来のスギやヒノキなどの針葉樹を中心とした林業だけでなく、地形や地質などの立地環境に応じた広葉樹を含むさまざまな樹種を選択し、配置を判断する「自然配植技術」を取り入れています。そのため、樹種特性などの高度な専門知識とそれらを生かす植栽技術を持ち合わせた人材が在籍しているのが特徴です。また、宮川森林組合が事務局を務め、地域住民が中心となって設立された大台町苗木生産協議会では、地域に自生する樹木の種子から広葉樹を中心とした130種類以上の多種多様な苗木を育てています。「多様性のある森づくり」を実現するために欠かすことのできない「人」と「苗木」という重要な条件が整っていることを強みに、高木、亜高木、低木など高さの異なる樹木、遷移の過程で育つ時期の異なる先駆種や中・後期種の樹木など、立地環境や樹種特性に応じた植林計画を策定し、実行しています。

2023年は同町内の藺地区にて、約0.5haの土地にアカシデ、ウリカエデ、キハダ、ケヤキなど30種類以上の苗木、合計990本を植林しました。本地区での森づくりは、株式会社シモジマ様と協働で取り組んでいます。





和歌山県 田辺市

高知県 梼原町

和歌山県 田辺市

田辺市の中辺路町近露では、育林事業を中心とした林業ベンチャー企業、株式会社中川と森づくりを進めています。2023年は収穫期を迎えたスギやヒノキの皆伐地を対象に、6.73haの土地にウバメガシの苗木20,190本の植林を実施しました。本地区での取り組みは、株式会社セールスフォース・ジャパン様と協働で行っています。

和歌山県の木、田辺市の木でもあるウバメガシは紀州備長炭の原料として知られ、地域の森林を象徴する樹種ですが、木炭生産を目的とした過剰な伐採や針葉樹を中心とした人工林への転換によって、近年大きくその数を減らしています。ウバメガシの植林を行うことで、地域の森林を本来の姿に戻していくとともに、将来的には備長炭の原料として活用することで経済と環境の両立を目指しています。ウバメガシは伐採しても切り株から新たに芽が出てくる萌芽更新が期待できることから、使う樹木だけを選択的に伐採する択伐の実施により、継続的に備長炭の原料を確保することができます。

獣害対策としては、植林地全体を柵で囲うゾーンディフェンスを採用しました。また、施業地の一部にもともと生えていた数種類の広葉樹はそのまま残し、自然に落下した種子による天然更新を促します。



ウバメガシの苗木



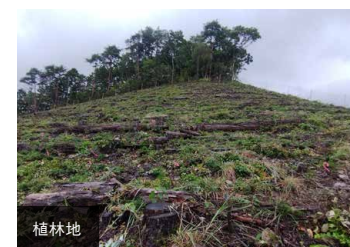
下草刈り

高知県 梼原町

梼原町で森づくりを進める仲洞地区では、ヒノキの皆伐跡地にて経済と環境の両立を目指して植林を実施しています。木材生産機能などを有する経済林として適しているエリアでは、これまでと同様にヒノキを植林し、その他のエリアでは地域の植生に合わせてイスノキ（別名「梲（ユス）の木」）など3種類の広葉樹を植林しています。本地区の植林活動については青山商事株式会社様と協働で取り組んでおり、2023年は0.8haの土地にヒノキ、イスノキ、ヤマザクラ、イロハモミジの苗木、合計1,200本の植林を実施しました。

また、これまでに植林を行った土地を対象とした生育調査を実施しました。仲洞地区では獣害対策用に設置したツリーシェルターによって生長が阻害されている苗木も一部見られましたが、各樹種とも生育状態は良好でした。芹川地区では、カエデ類やケヤキなどはノウサギのものと見られる食害が確認されましたが、全体的に生育は良好で、特にイスノキの生長が順調でした。

また、有限責任事業組合KlRecubを主体とした育苗プロジェクト「KlRecub-きりかぶ-苗木園」が始動し、地域の方々にご協力いただきながら、町内で採取した木々の種を使って広葉樹の苗木を育てています。



植林地



イスノキの種

インドネシア 東カリマンタン州

「森の人」 オランウータンが暮らす豊かな熱帯雨林

インドネシアの熱帯雨林はアジア最大規模で、その森林面積は地球上に残存する熱帯雨林の約1割を占めます。しかし過去40年にわたる過剰な伐採や森林火災などにより、急激に森林消失が進んでいます。その大きな要因の一つが、パームオイルなどの生産を目的とした開墾のための火入れと、その延焼火災です。パームオイルは食用油や洗剤など、私たちの生活に身近な製品の原料に多く使われています。こうした生産物に端を発した火災の発生による森林消失は、日本に暮らす私たちにとっても決して無関係ではありません。

インドネシア 東カリマンタン州

カリマンタン（ボルネオ）島の豊かな生態系を育む熱帯雨林には、オランウータンなどの絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息していますが、度重なる森林火災等で生息地を奪われているのが現状です。more treesはオランウータンの保護活動を行う現地の「BOS財団（Borneo Orangutan Survival Foundation）」とともに、2016年より「オランウータンの森 再生プロジェクト in インドネシア」を開始し、活動を続けています。

2023年はBOS財団の協力のもと、前年に引き続き2.5haの土地にオランウータンの餌となる果樹や在来種の苗木、合計1,000本を植林しました。このうち1.5ha分は、カラズ株式会社様と協働で森づくりを進めています。また、これまでに植林を実施した施業地のメンテナンス作業も行いました

10月には約3年半ぶりに現地を訪問し、植林地やこれまでに整備した貯水池などを視察しました。植林木が順調に育っているエリアがある一方で、枯死により植え替えを実施した箇所もあり、現場を確認しながら今後の計画について議論しました。

さらに、コロナ禍においてBOS財団の敷地内で被害が発生した石炭違法採掘現場の視察も実施しました。視察には公益社団法人 国際緑化推進センターの仲摩栄一郎氏にご同行いただき、植生回復の方法や施業計画についてご指導やアドバイスをいただきました。現場は早急な植生回復が必要と判断されており、2024年より石炭採掘跡地再生のプロジェクトを開始する予定です。



現地スタッフとの視察



リハビリ中のオランウータン



石炭違法採掘現場

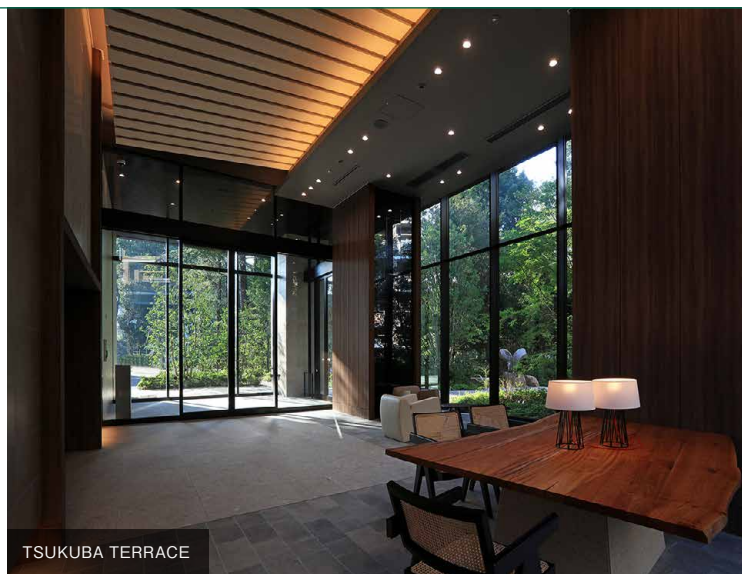


オリジナルプロダクト／ ノベルティ／空間

日本は豊かな森林資源に恵まれています
が、海外からの輸入材に押され、木材自給
率は4割ほどにとどまっているのが現状で
す。

more treesでは間伐などの森林整備とと
もに国産材の活用を推進し、デザイナー
や地域の職人と協働でオリジナルプロダ
クトの企画・製造・販売を行っています。

また、国産材などの森の恵みを活用した
ノベルティ、ギフトの企画・開発・製造や、
国産材を活用した空間デザインから店舗
什器の製作、木材の提供まで、さまざま
シーンで国産材利用のきっかけづくりをサ
ポートしています。



TSUKUBA TERRACE



東京ステーションホテル チャリティオーナメント



AIGLE カレンダー



青山商事 テーブル天板



ジョンマスターオーガニック ヒノキボール

ノベルティ・ギフト事例

ベスト販売

腕時計スタンド・グリーティングカード

ジョンマスターオーガニック／ミラコラ キャリア塾
ヒノキボール

東京ステーションホテル
チャリティオーナメント

AIGLE
カレンダー

空間・什器事例

TSUKUBA TERRACE (ルネつくばローレルコート)
樹木計画・伐採木活用サポート

青山商事
テーブル天板・什器 (SUIT SQUARE TOKYO GINZA店)

I-ne
テーブル天板 (オフィス空間)



講演／イベント／ワークショップ

日本や世界の森林事情をはじめ、森林や木材の魅力、私たちの暮らしと森とのつながり、社会貢献や地域との協働など、講演やセミナーを通じさまざまな観点から森について伝える活動を続けています。

また、木に触れ、森を身近に感じられるようなイベントやワークショップを各地で開催し、子どもたちをはじめ幅広い年代の方にご参加いただいています。



自然環境学習講話



J-クレジットから始まる森林のゲームチェンジ



WOOD CHANGE Pop Up Event

講演／セミナー／シンポジウム

2023年2月15日ほか
「SDGs／社会問題スタディツアー」
(主催：Ridilover)

2023年6月11日
「第27回 森林と市民を結ぶ全国の集い2023」
(主催：森林と市民を結ぶ全国の集い 実行委員会)

2023年7月6日
社内講演会
(主催：伊藤忠テクノソリューションズ)

2023年9月20日
名古屋市立富士中学校
「自然環境学習講話」
(主催：NPO法人ICDS)

2023年10月17日
東京工科大学
「ライブ・エンタテインメント論」

2023年10月20日
「こうちカーボンニュートラル推進フォーラム2023」
(主催：高知県)

2023年11月23日
「エシカルフェスタ2023」
(主催：エシカル協会)

2023年11月28日
「J-クレジットから始まる森林のゲームチェンジ」
(主催：浜松地域FSC・CLT利活用推進協議会 FSC部会)

2023年12月5日
「日経SDGsフォーラム 特別シンポジウム」
(主催：日本経済新聞社／日経BP)

他

イベント／ワークショップ

2023年7月1日
「Retclub」本棚づくりワークショップ
@八王子みなみ野リトヒルズ

2023年10月7～8日
「WOOD CHANGE Pop Up Event」
@スノーピーク ランドステーション白馬

2023年11月12日
「みなと森と水会議」つみきワークショップ
@港区立御成門小学校

2023年11月17日～12月25日
「ARK HILLS CHRISTMAS 2023」
@アークヒルズ

他



協賛者様一覧

Supporters of More Trees

	一生涯のパートナー 第一生命  Dai-ichi Life Group	 三井住友ファイナンス&リース	BIOTOP	 GeoTechnologies		
	あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP	Have a good Cashless.  三井住友カード	TRACE	 SINCE 1851		
	 Manulife マニユライフ生命		 青山商事株式会社	 Members		
	 三井住友銀行		 傘はファッションだ。 UMBRELLAS ARE FASHION.		 MACCHIA LABEL マキアレイベル	
			 UNITED ARROWS LTD.		 NQH Natural Treatment & Henna-Color	
				 UNIPRES プレスの力で、未来にプラス。		

 kokode.jp ©KOBUNSHA SELECT SHOP	 OR. OVERRIDE	 伊藤忠リーテイルリンク株式会社	 HOT STUFF PROMOTION	 近畿日本 ツーリスト	 KYGNUS	 cofl by 4C	 サツドラ SAPPORO DRUG STORE	ネクストレベルジャパン株式会社 エイベックス・クリエイター・エージェンシー株式会社 株式会社IMCF アイコニックボックス株式会社 一般社団法人未来とコラボ 株式会社ジョア 株式会社ミツハシ 一般社団法人日本WPA レジル株式会社 株式会社たかくら新産業 株式会社エス・ティー・シー 株式会社YOOL 株式会社ブリプレス・センター 株式会社オープンパワー 株式会社高松金属 株式会社デジタルサイン 株式会社ミルク マザーウォーター株式会社 株式会社中島重久堂 株式会社イワタ アステリア株式会社 株式会社Freewill 株式会社スタイリングライフ・ホールディングス 株式会社五色 アシックス・プレイシユア株式会社 株式会社ワンオー 株式会社Breal 一般社団法人Art & Scienceシンフォニー協会 株式会社環境計画研究所 株式会社フェアテクト ラヴィストトーキョー株式会社 ソフトバンク株式会社 株式会社NTTスマイルエナジー 株式会社Q.E.D.パートナーズ 株式会社ZENZEN JAPAN 株式会社アーチ アサヒベット株式会社 株式会社アジョイア・ジャパン 彩り株式会社 株式会社キゴコロ 合同会社きのわ 株式会社グリーンロード 株式会社グループ現代 株式会社コロボスタイル 一般社団法人全日本機密文書裁断協会 株式会社デラックス 株式会社トイント フィトンチッドジャパン株式会社 株式会社フォールデイル 株式会社フランドル 株式会社モノマネ 株式会社ライブス 株式会社和田植木
 InteriorOfficeOne	 SMAS 住友三井オートサービス invite to new business mobility.	 Y! ネット募金	 yamagiwa THE ART OF LIGHTING	 KASHO SANZEN	 KAZUMA inc.	 Calbee KAITSUKA Sweet Potato	 CABOT	
 Newport	 GEAR	 STAR*TECH STAGE ART & TECHNOLOGY	 NOHARA	 FUNKY co., Ltd.	 skaga swedish for nature since 1948	 MUFG 三菱UFJ信託銀行	 AfternoonTea LIVING	
 MOËT & CHANDON CHAMPAGNE	 CTC Challenging Tomorrow's Changes	 WAFONA	 becoz	 PRMAL	 Mother's Industry co., Ltd.	 TOYOSHIMA	 SEIDO	
		 YAMAHA	 ROWE	 DAMDAM TOKYO	 TBM	 SMFL SMFLレンタル		
		 WILLIFE.com	 U1R Save the Orangutan	 CAMPANELA	 HIROMATSU	 SAINT JORDI FLOWERS THE DECORATOR	 octopus energy	
 上野硝子工業株式会社	 三機工業	 Joeomomola	 ARTIDA OUD Les Sens of Olfactory	 Speaks	 THE TOKYO STATION HOTEL	 Orico	 Asste	
 TAITRA		 PLC Partners	 大昭和紙工業	 MIZUSHIMA CREATIVE GROUP 水曜クリエイティブグループ				

※法人の名称につきましては、敬称を省略させていただいております。何卒ご了承ください。



これからも「都市と森をつなぐ」をキーワードに活動を進めてまいります。

引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。

法人概要 Corporate Profile

一般社団法人 more trees

151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-9-11 フレンシア外苑西 103

Tel 03 (5770) 3969

Fax 03 (5770) 3896

Mail info@more-trees.org

URL <https://www.more-trees.org>

事業内容

- ・国内外での森林保全（植林、間伐、整備など）
- ・国産材の普及
- ・森林由来のカーボン・オフセットサービスの提供
- ・森林に関するセミナー・イベント、森林を訪れるツアーの企画・開催
- ・被災地支援活動
- ・その他、森林に関する事業全般

設立

2007 年 7 月 19 日

役員等

創業者 坂本龍一

代表理事 隈研吾

理事 池田正昭 見城徹 石橋直樹

監事 山崎卓也

※本レポート内の文章・画像等の無断転載はご遠慮ください。

FSC マーク